第六期長期計画市民会議（第２回）議事要録

■　日　時　平成30年７月１日（日）　午前10時～午後４時55分
■　場　所　武蔵野市役所　412会議室

１．開会（午前10時）

２．議事

⑴事務局説明

・企画調整課長より資料２に基づき「武蔵野市における人口の現状について」、資料３に基づき「武蔵野市における財政の現状と見通し」を説明。

・企画調整課長より会議の進め方について説明。

⑵グループ討議

・事務局より各分野の概要説明を行った。

・分野ごとに２グループに分かれてグループ討議を行った。

・各グループの討議内容は、以下のとおり全体に共有された。

緑・環境

【市民会議サポーター】（グループ①の討議内容について）

「次世代に向けたビジョン・ありたい姿」として、緑の基本計画やクリーンセンターの歴史など、市のこれまでの取り組みは非常に評価でき、続けていくべきということ、そして、やはり住みやすいまちの前提には良い環境があるということ、武蔵野市は市民活動が非常に充実しており、市民協働による緑の保全・創出、豊かな環境をつくり出すということが挙げられた。市民協働という点ではクリーンセンターの市民協働での建て替えの歴史などをしっかり示すことが将来のビジョンに重要であること、ごみについては「ごみは少なく、緑は多く」が大切であり、剪定枝や生ごみの課題など環境の話の中でさまざまな要素とつながりが出てくるテーマであるとの話だった。

「現状と課題」については、「2022年問題」が言われている農地・生産緑地について、土地が減って人が増えるのか、それとも豊かな土地として生み出されるのかは重要であること、公園については昔の家の庭園を利用した公園など非常に使いにくいものがあったり、公園の配置に関しても現状としては問題がある。そうしたことに対して都市基盤の一部として考えた方がいいのではないかということや、放射能によって落ち葉の堆肥化ができなくなっているといった意見が出た。エネルギーについても、自然エネルギーの拡大がビジョンにある一方で、自然エネルギーは必ずしも環境にいいものではない、太陽光パネルをこれから20～30年利用した後どう処分するのか、といった課題も挙げられた。

「ビジョン・ありたい姿を実現するためには」として、公園についてイコール緑と狭く捉えるのではなく環境として広く考えるべきということ、未利用地を暫定的に公園として開放すること、また、市民と行政の協働という発想で、公園のあり方や生活公害について、市民同士がコミュニケーションをとるために行政が間に立って対話の場をつくるべきという議論があった。また、教育が

非常に重要だということで、自然だけでなく、ごみの問題も含めて、次世代に向けてきちんと教育で示していくことが大切であるということ。そして先ほどの農地と関連して、生産緑地については失われたものに対してどのように創出していくか、保全するかということをしっかりと計画の中で議論すべき、エネルギーも多角的な議論が必要であるという話が出た。

個々の現状の生活の中からこのような課題や意見が出され、非常に広範囲に話が広がった。

【Ｆ委員】（グループ②の討議内容について）

「次の世代に向けたビジョン・ありたい姿」は、大きく２つの内容が出された。ひとつは、武蔵野市にとって緑は一つの特徴・長所であり、武蔵野らしい緑、特に「住宅地に緑があること」が大事で、この緑をいかに守っていくかということである。

もうひとつは環境面として、サステイナブルやエネルギーの地産地消などの取組みも先端都市にしていこうという点が挙げられた。

「現状と課題」の意見は大変多岐にわたっているが、まずは公園・緑の観点がある。これは大規模な公園から地域の公園、学校緑地など、それぞれがいろいろな課題を抱えている。また、公園ではなくても、通常の街路樹や緑をもう少し回遊的に生かしたまちづくりについて意見が出された。

緑以外には、玉川上水に限らず、水と緑をどのように考えていくか、これには治水の問題もあろうという意見が出た。これらのことは、まちづくりに影響するということで、景観や、住宅地の大木など、これらを誰が守っていくかという担い手の課題も挙げられた。

環境面としては、ごみの問題や、市民の自覚、市民・民間・官の役割の整理なども課題であろうという意見が出された。

最後に「ビジョン・ありたい姿を実現するためには」について、いろいろなアイデアが出された。ひとつは、公園・緑について市民が自分のこととして意識・自覚を持つことが大事で、そのためにどんな情報発信、教育・啓発をしていくかが重要との話が皆さんから出された。

公園や学校のビオトープの管理についてシニア人材を活用していくとか、公園と人との関わりをどう持っていくかという視点も必要であること、いろいろな公園があるが、市民のニーズへの対応、今ある公園のさらなる活用、その活用の仕方などについてもいろいろ考えていくべきとの議論が出た。

また、人として、コミュニティとしてどう取り組んでいくかということや、従来は公園に出てこなかった若者にも緑について関わってもらえるようなことができればといった意見が出された。

都市基盤

【市民会議サポーター】（グループ①の討議内容について）

「次の世代に向けたビジョン・ありたい姿」に関しては、武蔵野市は武蔵野市らしく（吉祥寺は吉祥寺らしく）、計画的な基盤整備、また、景観・安全・安心への配慮、魅力あるまちづくり、災害時の安心・安全、住みたいまちより住んでよかったまち、などが挙げられた。

「現状と課題」については、まず、都市計画道路の問題、自転車問題、自転車道、歩道の乗り入れに関する安全面が課題として挙げられた。

また、災害時における上下水道の問題や駅周辺の安全・安心の問題、整備の問題が挙げられた。景観の問題として、地域の文化や魅力的な緑のまちづくりをどのように守っていくべきか、計画道路のように市と都・国とのやり取りに関してはもっと情報共有があると市民としてできることを考えられるのではないか、また、民間施設の老朽化なども課題として挙げられた。

「ありたい姿を実現するためには」としては、担い手となる住民のコミュニティ形成が必要であること、また、三駅周辺それぞれの魅力づくり、安心・安全面として交通意識の高揚とルールの徹底化、見守りとしてのシニアの活躍。それから、コンパクトシティと言われているような公共施設の配置の検討や、他市との連携、広域連携が必要との話が出た。先ほど計画道路の話が出たが、市と都・国の連携の問題については、住民もいかに参加・連携していけるかということを考えることが必要だろう、という話があった。

【G委員】（グループ②の討議内容について）

「次の世代に向けたビジョン・ありたい姿」として、住み続けられる・住み続けたい武蔵野市、歩行者や障害のある方を大切にする道づくり、地震対策の強化に伴う安全都市の実現、物理的ネットワークだけでなく情報ネットワークを含めた都市基盤の整備、「まちの個性を大切にしつつ、持続性やインフラコストを考えたまちづくり」などさまざまなビジョン・テーマが出された。

「現状と課題」として、「住み続けたい・住み続けられる武蔵野市」に対しては、家賃が高く住み続けられないため若い世代が定着しないのではないかという意見があった。

道づくりに関しては、自転車の通行ルールやマナーの問題、駅前だけでなく住宅街においてもバリアフリーの検証をしっかりしたほうがいいのではないかという意見であった。

地震対策については、震災に対する総合的な対策、全体的な防災計画だけではなく事例研究を深めてみてはどうかということが挙げられた。

まちづくりに関しては、駅前周辺は現状のままでよいのか、見た目重視でまちづくりをしてはいけないのではないか、三駅の特徴を出した駅前づくりをするべきだという話があった。

上下水道について施設の問題や一元化の是非が話された。また交通網についてはムーバスの活用について、市に１つしかない施設へのアクセスにムーバス路線を工夫できないかとの話題が出た。

また、若者に広く、都市基盤の計画に参加してほしいという話があり、若者の意見が都市基盤について反映されていないことによって、若者向けのコミュニティが不足していたり、若者が結婚しないとか、若者が関心のあるテーマで集える情報網が不足しているのではないか、若者の生活充実が不十分なのではないかという話が出た。

「ビジョンを実現するためには」では、まちづくりへの若者意見の重点反映をさせること、そのためにインセンティブを与えること、仕事・就労・住宅などのつながりの基盤提供すなわち情報ネットワークを含めた都市基盤の整備が挙げられた。また、市のホームページのスマホ版の作成、

コミセンやプレイスなどの公共施設で議会中継のような公共的な放送ができたら面白い、見える化することでさまざまな情報が活用されていく、といった話が出た。また、生産緑地を活用した緑化推進、景観に配慮した住宅づくり、子育て世代が住みやすいまちづくりが必要との話があった。

行・財政

【市民会議サポーター】（グループ①の討議内容について）

「次世代に向けたビジョン・ありたい姿」として、まず「第五次武蔵野市行財政改革を推進するための基本方針及び武蔵野市行財政改革アクションプラン（平成29～32年度）」のビジョン・目標が達成されればよいという意見があった。「重点的な予算執行」、「縦割りの弊害がないような都市経営」、市民からの切り口として、「誰もが参加できる透明な市政」、「市民自治の観点に立った行政」といった意見が出され、「市職員と市民が触れ合い、市民自治を進めていくという姿を描きたい」ということが挙げられた。

「現状と課題」について。財政面では、「市民にわかりやすい予算」の公表、財政シミュレーションの社会状況に応じた更新、経営意識を持って民間手法を考えながらの運営、などが挙げられた。

市民参加の点では、「市民参加方法のマンネリ化」や、「自発的な市民参加が少ない」ため、市民が参加したくなるような情報提供をするなど市民参加のあり方を見直すべきとの指摘があった。それから、市民と行政のつながりを確保し信頼を生み出すため職員ができるだけ現場に出てきてほしいということ、職員の多忙化に対してメンタルヘルスの配慮、一方で、市民をいかに育てていくかということも重要な課題として挙げられた。

他に、学校区とコミュニティ地区が一致しないことの非効率性、コミセンのあり方の見直しも考えるべきという話があった。

「ビジョン・ありたい姿を実現するためには」では、財政や人口を踏まえた取り組み、人口動態の変動をしっかり見ること、第三者による事業評価の活用などの指摘があった。財政援助出資団体に関して、武蔵野市は専門的、効率的にサービス提供するために団体数が多いという説明を受けたが、果たして本当に効率化できているのか、第三者評価の活用もしてほしいという話があった。

情報公開の促進として、さまざまな情報を伝えるため全戸配布の市報のさらなる活用、ＡＩやＩＴの活用という話があった。

コミセンの切り口として、市職員がコミセンに出向き、もっと意見交換をしてほしいという話もあった。

【市民会議サポーター】（グループ②の討議内容について）

「次の世代に向けたビジョン・ありたい姿」として、「精神的に満足できる生活ができる」、「若者が生き生きと住み続けられる」、「市民生活を守り続ける」、「住みたい都市トップレベルであり続ける」、「積極的に市政参加する市民がいる」、「年寄りになっても楽しい市」といったビジョンが出された。

「現状と課題」では、公共施設のあり方、財政、市民参加に関して意見が出された。

公共施設に関しては、「施設に望むのはデザインでなくて使いやすさ」、「学校は避難所としてふさわしい施設になっているか見直すべき」、「施設が具体的にどの年代にどう利用されているかわかりにくい」といった意見があった。それに対して、「施設のあり方も利用実態を踏まえて見直したほうがいい」とか、「市役所も含め行政サービスは土日、休日にも使えるように」という話があった。市民感覚での見直しが大事ということであった。

財政に関しては、高齢化による財政悪化への対策、精緻な財政シミュレーション、市民が建設的に考えられる選択肢の提示、財政出資団体の合理化、各団体の役割の見直し、安易な民間活用は考え直すこと、市民によるチェック、市民の目が行き届くような仕組みが必要といった話が出た。さまざまな公共施設にも関連するが、学校施設の財政負担がこれから多くを占める中で、学校施設のリニューアル等については、小中一貫教育のあり方と区別してハード面はしっかりと整備していくべきとの話があった。予算配分については、都市基盤の議論でも挙げられたが、子育て世代にもっと重点的に配分すべきとの意見の一方で、高齢になっても安心して暮らせる姿を若い世代に見せることも大事だろうという意見があった。

市民参加に関しては、市報を読まない市民が多いこと、パブコメを出してもそれが反映されているか実感がないというようなことがあり、市政に関心が向きにくい状況がある。市のホームページの効果的な更新、市政に参加すると得だと思えるような施策を考えるべき効果的な市民啓発、子どもが市政に参加する大切さを学ぶ場（子ども議会や市議会などの見学ツアー）などの提案があった。

⑶その他

・分野を俯瞰した全体ディスカッションを行った。

【A委員】　市民が自分たちで街の未来を決めていくために、人と人とのつながりをつくることと市民同士の対話が重要であり、それを行政が支援することが大切である。状況の変化が激しいので、その変化を見守りながら、何にお金を使うべきなのか、何を優先すべきなのか常に対話しながら進めていくことが必要ではないか。

【Ｊ委員】　長期計画の策定について、既存の項目・枠組みで良いのかという問題提起を行いたい。枠組みを超えた横断的な議論を行うことも必要。市の職員もこういう機会にはぜひ会議・ディスカッションに参加してもらった方が良い。

【G委員】　市民参加がますます重要だと感じた。参加することで、納得した上で協働する市民でありたいし、そのように市からも啓発していただきたい。18歳の参政権も始まる中で、若い世代の市民教育に力を入れる必要があると思う。

【H委員】　30年後50年後に向けて、市政の方向付けとなる、財政や人口の問題など、今手を打つべき課題について、テーマを絞った議論を行いたい。

【Ｉ委員】　なぜ長期計画の分野順と異なる順番でグループ討議を行ったのか。地域経済の活性化、社会保障の増大、大規模災害の対策が一番重要だと考えているが、６つの分野での枠組みでは議論がしにくい。この設計の意図を聞きたい。

【企画調整課長】　今回のグループ討議の分野の順番は、市民会議の日程と市民会議サポーターの方々の予定を調整した結果であり、意図的なものではない。また、全体的な話の前提として分野ごとの積み上げの議論をするという意図で設計した。分野横断的な議論ももちろん歓迎したい。

【Ｆ委員】　次回は、まず会議の冒頭で、分野に限らない「目指すべき将来像」について各委員から意見を出し、その後で各分野の討議に入ればいいのではないか。

【Ｄ委員】　長期計画について分野以外の切り口でも議論すると、より幅広い視点が出てくるのではないか。

【Ｅ委員】　次回のグループ討議の後、最後にまとめとして、武蔵野市における問題は何か、解決しなくてはならないことは何か議論し、その課題を策定委員会に伝えてもいいのではないか。

【企画調整課長】　第３回、第４回では、６分野のグループ討議を経て出された共通する項目について議論する時間を設けてまいりたい。また、全体を俯瞰した意見については、報告書の原案としてまとめて、第４回会議の開催前には送付する。第４回ではそれも踏まえて議論いただき、報告書をまとめていきたい。

以上